



がん薬物療法専門医のコラム 第9回

皆さんこんにちは

これからの医療は 4つのPが重要だとよく言われます。

今回は この4Pをご紹介します。

Pというのはいずれも英語の頭文字です。

- 1 Predictive 予知
- 2 Preventive 予防
- 3 Personalize 個別化
- 4 Participatory 参加型

それぞれ、がん診療に当てはめて解説していきます。

まず、『予知』ですが、これは〇〇がんになりやすい人をあらかじめ絞り込むことを指します。喫煙している人が肺がんになりやすいとか、ピロリ菌に感染している人が胃がんになりやすいとかそういったことももちろんですが、がんになりやすい体質の人を見つけ出すことが中心になっていくかもしれません。

次に、『予防』ですが、『予知』できた方のリスクを下げるための治療や指導を行うことを指します。喫煙者が禁煙する、ピロリ感染者に除菌治療をするというようなものが一例です。

『個別化』については少し説明が必要です。個別化医療というと何か特別な治療とお考えになると思いますが、今日では、個別化医療自体が、標準治療となってきました。以前は、がんでいえば、癌が最初にできた場所に応じて、例えば胃に最初にごんができれば、胃がんの治療をと、臓器別の治療がなされてきました。現在そして未来においては、がんの発生源がどこかということも引き続き大切なことですが、癌の原因、これはつきつめると遺伝情報の異常までいきつくと思えますが、その異常に合わせて = 個別の治療を行うことになってきます。ですから、同じ胃がんであってもある特徴をもつ胃がんの方はそれに応じた個別の治療を受けるが、その特徴を持たない別の胃がんのひとにとってはその治療は向いないので別の治療を受けるということになります。

すでにお気づきの方もいると思いますが、いま説明してきた3つのPはいずれも遺伝学的な検討が大切です。

そして、4つめの最後のPである『参加型』についてです。これらは検索した結果を当事者である患者さん達に説明し、その結果を基に、医療者と共に 『予知』、『予防』、『個別化医療』を患者さん、そのご家族自身も積極的に考えていくことです。このためには、得られた情報を皆様にわかりやすく説明する力が我々医療者には今まで以上に求められることになります。遺伝学的なものの考え方がより必要とされる時代になりますから、私自身は継続的にこれらを勉強して、皆様に還元していきたいと思っています。

ではまた。

